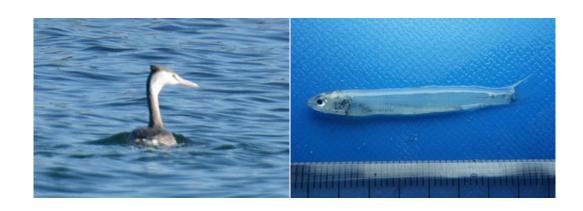
### 環境資料第29075号

# 平成28年度

# 水生生物調査結果報告書 (東京都内湾)



平成30年3月東京都環境局

#### 表紙の絵

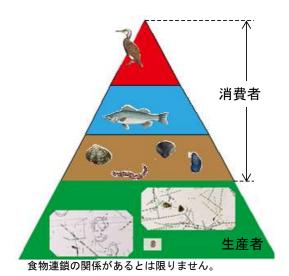
左:カンムリカイツブリ(葛西人工渚、平成29年1月)

主に冬鳥として海岸や海岸付近の湖沼、大きな河川等に渡来する。潜水して魚類や甲殻類、昆虫類等を餌とする。東京都では、冬季に葛西人工渚周辺の海上に集中してみられ、平成28年度は2月に2800羽程がみられた。かつては生息数が少なかったが、1993年度以降から急激に増加した。東京都レッドリストでは留意種。

右:アユ(城南大橋、平成28年5月)

川を遡上する前の稚魚。体長が3~4cm 程度なるまで海域に滞在し、その後、河川を遡上する。 海域では主に動物プランクトンを食べて成長するが、河川に入ると付着藻類を食べるようになる。 海で生活する間は、体の透明感が強い。

## 東京都内湾の水生生物生息状況 (平成 28 年度)



東京都内湾には、河口域や干満により干出することがある干潟域、河口と干潟をつなぐヨシ原、浅海部、内湾部等様々な環境があり、環境に応じて、さまざまな生き物が生息しています。

環境局では、昭和 61 年から環境把握の一環として水生生物調査を実施してきました。

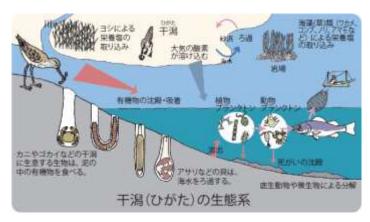
平成 28 年度には、以下の種類数が確認されました。

鳥類調査 : カワウ、カモ類等 53種
 成魚調査\* : ハタタテヌメリ等 11種
 稚魚調査 : マハゼ、ビリンゴ等 38種
 付着動物調査 : ムラサキイガイ等 63種
 底生生物調査 : アサリ等 50種
 プランクトン: スケレトネマ等 76種

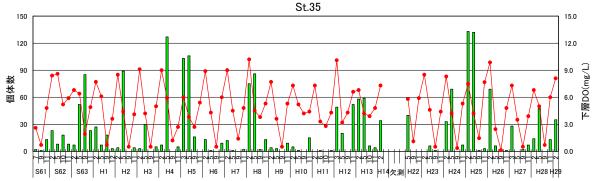
※成魚調査は、小型底引き網を使用した底生魚類を対象とした調査です。

生きものは食物連鎖を通じて、海をきれいにする働きがあります。

わたしたちの出した汚れ(有機物)は、 貝、カニ、ゴカイなどの生物のエサとなり ます。それらを鳥や魚等が捕え、系外に排 出することにより、東京湾の汚れ(有機物) を取り除くことができます。干潟は食物連 鎖の各段階の生物がおり、この流れが機能 しやすくなっています。



一方、東京都内湾の底層では、夏季に酸素濃度が低下する現象が発生しており、無生物となる 海域が発生しています。下図に、成魚調査の出現個体数の長期変化を棒グラフ、下層の溶存酸素 量の変化を折れ線グラフで示しました。9月の調査では下層(海底から 1m上部)の溶存酸素量 が2mg/L 以下となることが多く、その場合、出現個体数は極端に減少しています。貧酸素の存 在が生物に与える影響は大きいのです。



#### 調査地点(赤字の地点については巻頭3~5ページで紹介しています。)



(St.31)

#### 干潟部 5地点

(葛西人工渚、お台場海浜公園、城南大橋、森ヶ崎の鼻、多摩川河口干潟)

#### 護岸部 2地点

#### (中央防波堤外側(その2)東側、13号地船着場)

※調査地点の詳細については、本文2、3ページ参照。

# お台場海浜公園 ~水生生物にも人気のスポット~ 実施調査:鳥類、稚魚 Jakan

2020年の東京オリンピックで、トライアスロンや水泳マラソンの会場に決定したお台場は、ペリー来航時に砲台を置いた場所で、 今でも二つの台場が残っています。一時期、貯木場にも使われましたが、その後、海浜公園として整備されました。現在、近くに は複合商業施設やテレビ局本社があり、また夜には多くの屋形船が出て、東京の一大観光スポットとして賑わっています。人工砂 浜も整備され、誰でも海のすぐ近くまで近づくことができます。



#### 鳥類調査

第六台場、鳥の島の樹上で、カワウやサギ類が営巣



浅瀬の水面に多くのスズガモが休息



鳥の島の消波ブロックでシギ類が休息、採食

浅瀬、砂浜付近でユリカモメが休息







#### 稚魚調査





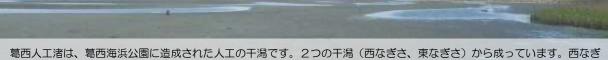




「江戸前」の代表種のマハゼの稚魚や、東京湾が国内の漁獲量 No 1 を誇るスズキの稚魚などが多くみられま した。冬には、アユの稚魚も。アサリも取ることができ、潮干狩りを楽しむ人の姿も見られます。

#### 葛西人工渚(東なぎさ) ~水牛牛物の楽園~

実施調査:鳥類、稚魚



さには橋が掛けられ、人の立ち入りが可能となっており、近年は海水浴体験イベントが実施され話題となっています。一方、 東なぎさは環境保全ゾーンとなり、一般の立入が禁止され、鳥をはじめとした水生生物の楽園となっています。



#### 鳥類調査

Street But between the same



②のエリア シギ・チドリ類、サギ類が採食、休息



④護岸 カワウ、サギ類が休息

②干潟の水際 カワウやカモメ類が休息







③のエリア スズガモとカンムリカイツブリの群れ



#### 稚魚調査







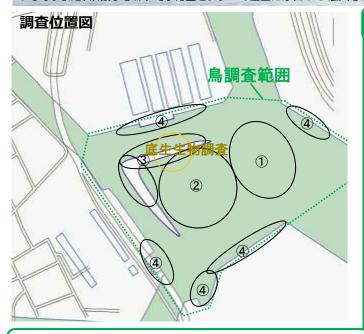


絶滅危惧種に指定されているエドハゼや、「江戸前」の代表種のマハゼの稚魚が多く出現。春には、東 京湾の高級品として知られるイシガレイの稚魚も。近年、毎年確認されるアカエイは、背びれに毒針が あり注意が必要。

### 森ヶ崎の鼻 ~埋め立て地に囲まれた干潟~

実施調査:鳥類、底生生物

森ヶ崎の鼻とは、羽田空港の北西の運河域に位置する 15ha の干潟のことです。干潮時になると、くの字型の干潟が干出します。京浜島緑道公園等から眺めることが出来ますが、一般の立ち入りはできません。すぐ脇には東京モノレールが走っています。また、隣接する森ヶ崎水再生センターの屋上には、NPO 法人等により守られたコアジサシの人工営巣地があります。



#### 鳥類調査

①のエリア コアジサシが、干潟が干出した場所では休息、空中から飛び込んで採食



②のエリア 干出した干潟でシギチドリ類、サギ類が採食。休息



③のエリア (干潟)

干潟の高い部分では、カワウやウミネコなどが休息



④のエリア カモ類、サギ類が採食・休息





種の保存法:国際希少野生動植物種

環境省レッドリスト 2015: 絶滅危惧 Ⅱ類 (VU)

東京都レッドリスト 2010 版(区部):絶滅危惧 I B 類(EN)

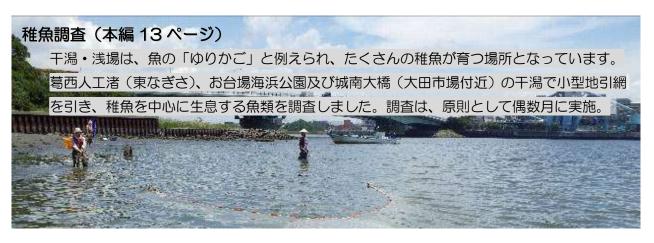
オーストラリア、ニュージーランドで越冬し、4~8月に日本周辺で繁殖。近年、自然の営巣地が減っている。森ヶ崎の鼻に隣接する森ヶ崎水再生センター屋上に人工営巣地がある(NPO、行政)。







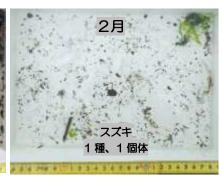
春夏を通じて多毛類が最も多く、ほかにヤマトシジミやアサリなども出現した。水深が浅く、河川水の影響を受ける。そのため、貧酸素状態は起こりにくいが、淡水の影響を受けるため海水性種は少なく、出現種類数は他の地点に比べ少ない。



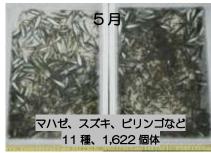
#### 葛西人工渚 (東なぎさ)







#### お台場海浜公園







#### 城南大橋







#### 稚魚調査(小型地引網)で採集された代表種

種名	生態情報	図・写真
マハゼ	東京では最も大きくなるハゼ。 春先、稚魚が河口付近の干潟に現れ、成長するにつれて色々な場所へ散らばっていく。河口や内湾ではU字型の深い穴を掘って産卵する。	東京都内湾の代表的な底生魚である。稚魚調査で確認されるマハゼは、10 cm 程の個体が主であるが、育つと全長は30 cm 程度となる。 秋から冬にかけて最も人気な釣りの対象種。

種名	生態情報	図・写真
ビリンゴ	泥底から砂泥底に住む。河口部に泥底域が発達しているところに多い。 岸辺近くの泥底に穴を掘るか、アナジャコやゴカイなど、他の動物が掘った穴を利用して巣を造り、巣穴の壁面に雌が産卵した後ふ化まで卵を守る。ふ化仔魚は一旦海に下り、しばらくして川へ遡上する。	寿命は 2~3 年であるが、1 年で成熟して産卵後に死亡する個体も多い。全長は6 cm 程。 上の写真は、12 月にお台場海浜公園で撮影。
エドハゼ	自然環境が保たれている河川の河口域に 生息する。砂泥底を好み、スナモグリ類 やアナジャコ類が掘った巣穴を使って暮 らしている。小型甲殻類を主に食べる。 特に、葛西人工渚で多く出現する。	
ボラ	出世魚で、小さいものから順に、ハク、 オボコ、イナ、ボラ、トドと呼ばれる。 卵巣を加工したものはカラスミと呼ば れ、珍重されている。 都内河川の下流部から内湾に広く分布し ている。泥底の有機物などを餌とする。	海面で飛び跳ねる。お台場海浜公園で跳ねている魚を 見かけた場合、その多くはボラである。成魚の全長は 60cm 程度。
スズキ	東京湾を代表する魚。河口の干潟などでは、春先、数cmの稚魚が多く現れる。東京湾を広く回遊し、都心近くの運河でも見られる。河口部から内湾に広く分布しており、ゴカイ類、甲殻類、小魚などをエサとする。	小型のものは、体に黒っ ぼい斑点がある 成長すると全長は 50~90cm 程度になる。

#### 魚類調査において確認された魚類以外の生物の代表種

干潟の地引網調査では、魚類の他に、アミ類や二枚貝などが採集されます。それらは稚魚などのエサとして重要な役割を持っています。

種 名	生態情報
アサリ	日本全国の淡水の影響のある内湾潮間帯の砂泥底に生息する。 競長4cm、殻高3cm程になる。東京湾の干潟の代表種で、多くの人が潮干狩りを楽しんでいる。東京湾も多くの浮遊幼生が確認され、着底場さえあれば、生息可能であるとされている。
東京湾のアサリは、貝の柄が派手と言われる。	
ニホンイサザアミ	汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間でない)である。 魚類等の餌となり、食物連鎖において植物プランク
	トン等生産者のエネルギーを上位の消費者に渡す重要 な役割を果たしている。佃煮や飼料としても利用され る。



St.35



下層 DO(溶存酸素濃度)が低くなる夏場では、生物がほとんど確認できなくなります。酸素濃度が回復に向かう秋口から徐々に生物が戻り始めます。しかし、次の夏にはまた生物が生息できなくなる環境が発生するということが、現在の東京湾の大きな課題となっています。

成魚調査(ビームトロール)で採集された代表種(魚類以外も含む)

	放照調査(ヒームトロール) で採集された代表種 (無類以外も含む)   種名			
テンジクダイ	上 忠 肯 報 内湾から水深100mくらいまでの砂泥底にすむ。 夜行性で、7~8月頃産卵する。 雄が口の中に卵の塊を含んで守る。 海底の小動物をエサとする。	国が大きい 全長は9cm 程度 St.25 2月		
ハタタテヌメリ	内湾の砂泥底にすむ。雄と雌とで模様が異なる。雄は尾びれが長くて糸状に伸びる。粘液を出すのでヌルヌルする。 ゴカイ類や二枚貝を餌とする。食用になる。	雄は特に長い St.35 2月 全長は 10cm 程度		
コモチジャコ	主に湾央に分布する。内湾の水深20~60mの泥底から砂泥底に生息する。貧酸素水塊が原因となり減少すると考えられている。産卵期は春。全長6cm程度になる。	St35、2月		
シャコ	東京湾では 15~30mの深さにすむ。 肉食性で甲殻類、多毛類等を捕らえて食べる。江戸前の寿司ネタとして重宝されるが、近年、漁獲が少ない。	St.35 5月		
タイラギ	尖ったほうを下にして海底に立っている。大きいものは殻長 25cm を超えるが、湾奥部では貧酸素の影響でこのサイズ(10cm 程度)で死滅する。 潮通しのよい内湾の干潟から潮下帯、水深 30m の砂泥底に生息する。	St.35、2月		
ホンビノスガイ(外来種)	殻長 10cm を越える丸みを帯びた三角形の大型種。貧酸素状態等の環境悪化に耐性がある。外来種であるが、東京湾ではおなじみの貝となっている。 殻の色は本来白っぽいが、底泥中の硫化物の影響で黒っぽくなっている。	St.10、9月		
シノブハネエラ スピオ	干潮線以深の砂泥底に生息し、汚染の指標種として知られる。3 対の鰓があり、この鰓はすべて羽状の突起をもち、ハート型をした鰓葉が重なっている。体長5 cm程度。	0		



※各地点の調査範囲内での鳥類の様子は3~5ページ参照。

#### 調査の方法

望遠鏡や双眼鏡を用いて、船上や高台から、鳥の種類ごとにカウントし、その行動(休息、採餌等)についても確認を行いました。

#### 鳥類調査で確認された代表種及び重要種の一例

<b>- 一                                   </b>				
種 名	生態情報	写 真		
カワウ	留鳥として内陸の淡水や河川、湖沼等で最も一般的に見られる。たくみに潜水して魚類や甲殻類を捕食する。 関東での繁殖はほぼ一年中であり、水辺近くの林で集団繁殖する。東京湾周辺では、第六台場や行徳鳥獣保護区等をコロニー(集団繁殖地)やねぐらとして利用している。	平成 29 年 1 月 東京湾の浅場は重要な採餌場所であり、多く の個体が採餌のために集まる。		
スズガモ	冬鳥として内湾や河川、湖沼等に渡来するが、沿岸の海や大きい内湾、河口部に多くみられる。東京都では、餌となる魚類やアサリ、シオフキガイ等の二枚貝が豊富な葛西人工なぎさ周辺とお台場海浜公園の海上に見られる。冬に確認される個体数は非常に多く、数千~数万羽の群れが見られることもある。東京都レッドリスト2010では留意種となっている。	平成 29 年 1 月 東京湾で見られるカモ類のうち、最も個体数 が多い。夏季には繁殖しない個体が少数見ら れることもある。		
コガモ	北半球北部で広く繁殖する小型の淡水カモ。尻に三角形の黄色が目立つ。 冬鳥として渡来。頭部が茶色で、目の 周りから後方にかけて緑色の帯があ るのはオス。メスは全体に褐色で黒褐 色の班がある。近年、森ヶ崎の鼻では 越冬個体数が多い。	平成 29 年 1 月		

種 名	生態情報	写 真
ユリカモメ	ごく普通に見られる、やや小型のカモメ。冬季に海岸の漁港や河口、干潟、河川等に渡来。主に昆虫や無脊椎動物、死肉等を餌とする。群れで生活し、大群になることもある。 冬鳥であるが、夏季に少数が越夏することもある。夏羽になると、頭部が頭巾を被ったように黒くなる。 本種は、都民の鳥に指定されている。	平成29年1月 東京湾では、冬季に最も優占して見られるカ モメ類で、春季と秋季の渡りの時期には、数 千羽が見られることがある。
アオサギ	日本に生息するサギ科では最大のサギ。水辺で魚を捕える。よく茂った樹林などに他のサギ類と共に集団繁殖地(コロニー)を形成する。鳴き声、フンの問題で近隣住民とトラブルになり、追い払われることが多い。第六台場、鳥の島でカワウ、コサギ、ダイサギとコロニーを形成しており、東京都内では数少ない繁殖地である。	平成28年8月
コアジサシ	種の保存法の国際希少野生動物等に登録されている重要種。 夏鳥として湖沼、河川、砂浜等に渡来し、体長10cm位以下の小魚を餌とする。繁殖期は5~7月で、海岸や川の中州、埋立地の砂地や砂礫地で集団繁殖する。 東京都では、森ヶ崎水再生センターの屋上に人工営巣地が造成されている。	平成28年5月
カンムリカイツブリ	主に冬鳥として海岸や海岸付近の湖沼、大きな河川等に渡来し、魚類や甲殻類、昆虫類等を餌とする。東京都では冬季に葛西人工渚周辺の海上に集中して見られる。かつては生息数が少なかったが、1993年度以降から急激に増加した。時には潜水を繰り返し、魚を捕食することもある。東京都レッドリスト2010では留意種となっている。	平成 29 年 1 月 冬羽では顔から胸が白く、首が長く体が大き いため、海上に浮いていると白く目立つ。
ハマシギ	旅鳥として春季と秋季に、海岸の砂浜や干潟等に多数が渡来し、ミミズ類やゴカイ類、ヨコエビ類等の甲殻類を捕食する。 日本で最も個体数が多い一般的なシギであり、群れで行動することが多い。東京湾では、干潟で越冬する個体が多数みられ、大きな群れを形成することもある。環境省レッドリスト、東京都レッドリストでは準絶滅危惧(NT)。	平成 29 年 1 月 平成 28 年度は、5 月に葛西人工渚で 300 羽を越える群れが観察された。

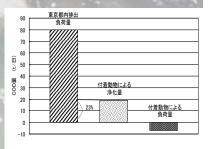
#### 付着動物調査(本編104ページ)

付着動物とは護岸についた生き物のことです。調査は、岸壁から海底まで潜水して垂直に分布 状況を調べます。付着動物は、その場所でじっとしているため、長期間にわたる環境の影響が反 映されます。中央防波堤外側(その2)東側、13号地船着場で5月に年1回、付着動物の調査を 実施しました。付着動物は、ムラサキイガイ等の外来種が多いことが特徴的で、バラスト水との 関係で水環境・生態系の問題となっています。

また、垂直護岸の付着動物の死骸は貧酸素水塊形成の一因とも考えられています。一方、付着生物は水質の浄化にも寄与してお

り、東京港内護岸総延長での浄化量について、東京湾に排出される 汚濁負荷量の23%に相当するとの試算結果<sup>(※)</sup>もあります。

(※) 東京都環境科学研究所 木村5 1998



東京都内湾の護岸付着動物によるCOD浄化量(1日あたり)

#### 調査地点の状況

	中央防波堤外側(その2)東側	13 号地船着場	
概況写真			
備考	中央防波堤外側埋立地の外側岸壁を調査地点として設定	お台場海浜公園から中央防波堤埋立地へ通じる第二航路海底トンネル排気塔にある船着場を調査地点として設定	

#### 付着動物調査で確認された代表種等

種名	生態情報	今年度の確認状況	
イワフジツボ	【代表種】潮間帯の岩の上部に群生する小型のフジツボ。殻口は広く、周殻は単独のときには円錐形であるが、密集すると円筒形を呈する。長時間の干出によく耐える。北海道南西部以南に分布し、内湾でもかなり奥まで分布する。周殻の直径8mm内外。	両地点とも潮間帯の上部に優占した。	
ムラサキイガイ	【代表種・外来種】ヨーロッパ原産で、昭和初期、船舶に付着して運ばれ、日本各地に広がった。港湾のブイや漁網、防波堤などに密集して付着する。殻は外洋性のイガイに似ているが、薄質で光沢がある。殻長7cm、殻高4cm程度。	両地点とも潮間帯の中間部で優占した。	



内湾部(St.6)及び浅海部(三枚洲)



#### 河口部(St.31)及び干潟部(多摩川河口干潟)



#### 下層 DO と表層 DO

調査対象の底生生物が生息している付近の水深の DO を併せて載せています。干潟・浅場では、 夏季でも生物が生息できる程の溶存酸素量があることがわかります。

下層 DO (海底から 1m 上): 内湾部、浅海部、河口部(ただし、St.31 の 5 月は、水深 1m 未

満のため、表層 DO を記載)

表層 DO : 干潟部 (下層 DO の測定なし)

#### 主要な底生生物出現種

#### 軟体動物門 二枚貝綱 シズクガイ Theora fragilis

東京湾では代表的な汚濁指標種。内湾潮下帯の軟泥 底に生息する。

貧酸素耐性があり、無酸素状態でも水温25℃であれ ば1日間生存できる。

#### 【出現狀況】

春季のSt.6、St.31で出現した。



#### 軟体動物門 二枚貝綱 ヤマトシジミ Corbicula japonica

殻長4cm程度になる。河口干潟等淡水の影響の強い、 砂底から泥底に生息する。日本産シジミ類で最も普 通に食用されているシジミである。

#### 【出現状況】

森ヶ崎の鼻と多摩川河口干潟でそれぞれ出現した。

東京都RDB 留意種

千葉県RDB 重要保護生物 (B) 環境省RDB 準絶滅危惧 (NT)



#### 軟体動物門 二枚貝綱 チョノハナガイ Raetellops pulchellus

説明

殻長1.5cm。内湾奥の底質干潟の干潮線から外洋の潮 下帯の泥底に生息する。シズクガイと共に貧酸素水 域でも短期的に発生して、多くの死殻だけが採取さ れることも多い。



#### 軟体動物門 二枚貝綱 アサリ Ruditapes philippinarum

日本全国の淡水の影響のある内湾潮間帯の砂泥底に 生息する。殼長4cm、殼高3cm程になる。潮干狩り等 で盛んに獲られている代表的な二枚貝。

東京湾のものは形が細く、模様のコントラストが強 いものが多い。



成魚調査の St. 22、St. 25、St. 35、底生生物調査 St. 6、 三枚洲、St. 31 でそれぞれ出現した。

稚魚調査の全地点で出現した。底生生物調査では春 季のSt.6を除く全地点と夏季のSt.31、森ヶ崎の鼻で それぞれ出現した。



#### 節足動物門 甲殻綱 ミツオビクーマ Diastylis tricincta

説明

体長6mmに達し、雌がやや大きい。背甲の側面に縦走 する隆起が3本あり、ミツオビ(三帯)の名がある。

#### 【出現状況】

底生生物調査では、春季の三枚洲で出現した。稚魚 調査では、葛西人工渚、城南大橋でそれぞれ出現し



#### 節足動物門 甲殻綱 ムロミスナウミナナフシ Cyathura muromiensis

説明

体長2cm程度になる。細長い円筒状の体をしている。 砂~砂泥質干潟のごく表層部分に巣穴を掘って生息

#### 【出現状況】

【出現狀況】

春季、夏季の多摩川河口干潟、夏季のSt.31でそれぞ れ出現した。



#### 環形動物門 ゴカイ綱 ハナオカカギゴカイ Sigambra hanaokai

干潟域から汚泥域まで多くみられる。汚染指標種。4 ~8剛毛節以降に鈎状剛毛がある。

#### 【出現狀況】

春季、夏季の三枚洲とSt.31で出現した。



#### 環形動物門 ゴカイ綱 Mediomastus sp.

説明

ミミズによく似たゴカイ類で、極めて細長い体をし ている。体色は赤みを帯びる。体は柔らかく切れや すい。

春季、夏季の三枚洲、春季のSt.31でそれぞれ出現し



#### 環形動物門 ゴカイ綱 Pseudopolydora reticulata

説明

細長いスピオ科の種類である。砂泥底に生息し、泥 を固めた棲管の先から感触手を水柱に出している。 ドロオニスピオ(によく似ており、生時の体色のほ か、頭部にある突起(肉冠)の黒色素で区別する。

春季のSt.6を除く全地点で出現した。



#### 環形動物門 ゴカイ綱 シノブハネエラスピオ Paraprionospio patiens

説明

体長5cm程度。干潮線以深の砂泥底に生息し、汚染の 指標種として知られる。3対の鰓があり、この鰓はす べて羽状の突起をもち、ハート型をした鰓葉が重な っている。

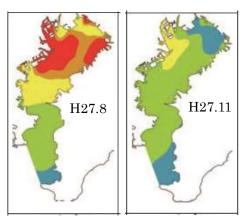
#### 【出現状況】

成魚調査の全地点で出現した。St.25で多かった。底 生生物調査では春季のSt.6と夏季の三枚洲で出現し



#### 生き物の脅威となる「貧酸素水塊」

東京湾、とりわけ東京都内湾では、毎年、夏季において、下層に溶存酸素量(DO)の低い「貧酸素水塊」が、広範囲・長期に形成されます。この水塊は、水生生物の生育・生息を阻害する原因の一つとなっており、東京湾の水環境の大きな課題となっています。貧酸素水塊形成の要因と考えられるのは、夏季を中心に発生する赤潮です。赤潮については、「平成28年度 東京湾調査結果報告書(東京都環境局)」にて詳述しています。



一般的に、DO が 4 mg/L 程度以下から生物の生息に影響が出始め、2 mg/L 以下では、生物の生息が極めて難しくなると言われています。

DO 2.0 3.0 5.0 7.5 10.0 [mg/L]

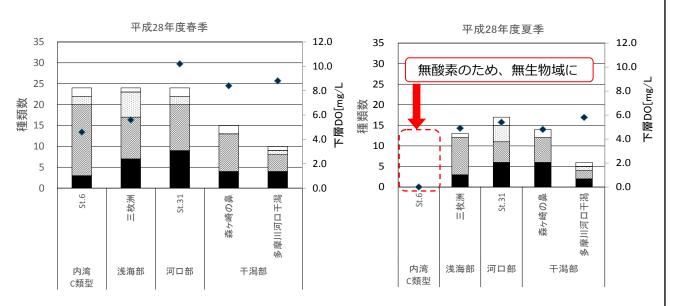
平成27年度における東京湾の下層 DO (溶存酸素量)の平面分布

左: 貧酸素水塊が広がる9月、中央: 回復過程にある 11 月

(東京湾岸自治体環境保全会議ホームページより)

#### 貧酸素水塊の影響 〜底生生物調査より〜

航路になっている地点や沖合の地点(内湾部)では、平成28年9月(夏季)の調査時に下層の酸素がほとんどなくなっており、生物は確認できませんでした。一方、貧酸素水塊の影響を受けにくい干潟部や浅海部では、春季と同様、多くの生物が夏季にも確認されています。



■軟体類 図多毛類 図甲殻類 □その他 ◆下層DO

調査地点ごとの出現種数(平成28年度)左:5月(春季)、右:9月(夏季)(本文p119参照)

#### 速報記事紹介(一部抜粋)

#### 稚魚調査 平成28年5月

### 城南大橋 採取試料







城南大橋西詰めにある干潟。 春の大潮時にあたり、調査時は、この 場所としては広い干潟がみられた。

#### ●主な出現種等



東京湾を代表する魚のひとつ。 内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は、初夏から秋にかけゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。



東京湾を代表する魚のひとつ。 ハゼ科稚魚や甲殻類を食べながら急速に成長する。

城南大橋では、大きさの異なる稚魚が 採取された。



内湾や河口域に生息し、泥底から砂泥底にある転石やカキ殻の間や 下などに多く見られる。



内湾のアマモやアオサの繁茂した場所や転石域、河口域でみられる。 他のウキゴリ属魚類よりも高塩分の水域を好む。



川を遡上する前のアユの稚魚。 干潟域には体長3~4cm になるまで 滞在し、その後、河川を遡上する。 海で生活する間は、体の透明感が強 い。

多摩川の調布取水堰での遡上調査では、3月下旬から6月にかけて体長4cm以上の個体が採取されている。



江戸前のカレイとして知られる。 稚魚は干潟域などのごく浅い場所に 出現する。成魚は夏には湾央のや や深場の砂泥底に分布しているが、 秋から春には湾奥に分布するように なる。

体の模様は砂の色にそっくりである。

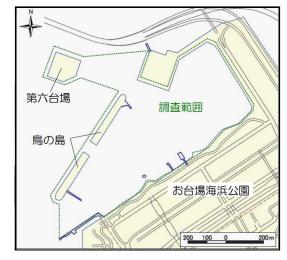
#### 鳥類調査 平成28年5月

#### <お台場海浜公園>

#### 〇調査地の状況

汀線に干潟や岩礁が干出していた。





# とナ とナ 親鳥 卵をねらう? ハシブトガラス

#### 〇出現種 (カワウ)

第六台場と鳥の島の樹上で営巣していた。親鳥 と同じくらいの大きさに育ったヒナも見られた が、まだ抱卵中の個体(尾を立てて巣に座って いるのが抱卵姿勢) もいた。



#### 〇出現種(アオサギ、ゴイサギ)

第六台場ではゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コ サギも見られ、アオサギは他のサギよりも早く繁 殖するためヒナが確認できた。



#### 〇出現種 (キョウジョシギ)

干出した護岸などで、キアシシギ、イソシギ、チュウシャクシギなどと共に採食していた。東京都レッドリスト (2010) では絶滅危惧 II 類 (WU) に指定されている。



#### 〇出現種(コアジサシ、アジサシ)

海浜公園内の構造物上で休息したり、空中からダイビングして魚をとっていた。コアジサシは種の保存法では国際希少野生動植物、環境省レッドリスト(2012)では絶滅危惧 II類(VU)、東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧 IB類(EN)に指定されている。

#### 【参考】

東京湾再生推進会議

「東京湾再生のための行動計画(第二期)」(平成25年5月)

快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ、<u>多くの生物が生息する</u>、親しみやすく美 しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する。

「第8次水質総量削減の在り方について(答申)」一部抜粋(平成27年12月)

「干潟・藻場の保全・再生等を通じた<u>生物の多様性及び生産性の確保等の重要性</u>にかんがみ、湾・灘ごとなどの実情に応じた総合的な取り組みを推進していくことが必要である。」

# ~赤潮(プランクトン)調査、水生生物調査の速報を発信しています~

### 東京都環境局HP

#### 東京都 水環境





( http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/water/index.html )

HPでは、水生生物調査、赤潮調査の速報や、過去の報告書等を掲載しています。

#### 平成 28 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月成魚調査速報

#### ●実施状況

平成 28 年 5 月 12 日に成魚調査を実施した。調査当日は中潮で、満潮が 7 時 34 分、干潮が 14 時 53 分であった(東京都港湾局のデータ)。調査当日の透明度は 0.8~1.0m であり、全地点とも、表層で赤潮状態が確認された。また、底層に貧酸素状態は確認されなかった。

	St.25	St.35	St.22	St.10
作業時刻	11:30-12:27	10:15-11:05	12:48-14:05	14:10-15:05
水深(m)	14.5	27.0	13.1	7.1
天候	快晴	快晴	快晴	快晴
気温(℃)	27.8	27.2	27.6	28.8
風向/ 風速(m/sec)	SSE/3.2	SE/4.0	SSE/3.5	静穏(-/0)

#### twitter

水環境関連のツイートをしています。







